

平成29年度園芸学部長(大学院園芸学研究科長)と学生との懇談会報告

*「卒業までに身に付けるべき英語力とは」というテーマを中心に懇談し、その後、各学生からの質問・要望等に対しての園芸学部(大学院園芸学研究科)からの回答をした。

- (1) 園芸学部, 大学院園芸学研究科
- (2) 平成29年11月17日(木)16:30~17:00頃 E棟学生ホール
- (3) 参加学生数: 19名
- (4)(5) 懇談会概要, 特定テーマ以外の意見での対応状況: 下記
- (6) 学生への周知方法: 園芸学部ホームページ

※「卒業までに身に付けるべき英語力とは」というテーマによる懇談

小林研究科長

今回は、「卒業までに身に付けるべき英語力とは」がテーマとなっており、それを中心に懇談を行っていく。もちろん、それ以外の意見も遠慮なく話してほしい。それから12月18日(月)14:30から西千葉で行われる学生参画会議へ、本日出席の学生から、学部生1名、大学院生1名に出席していただき、園芸学研究科・園芸学部の意見を学生側から提案してもらう予定です。人選についてはあとで相談します。

後藤学務委員長

【園芸学研究科として大学院生に身に付けてもらいたい英語力】

- (1) 英語能力を身につけるために、部局が求めている英語4技能
Reading: 学術論文等を読み、理解することができる。
Writing: 学術論文等を英語で書くことができる。
Listening: 英語で行われる研究発表や専門科目の授業を聞き取り、理解することができる。
Speaking: ディスカッションや研究発表を英語で行うことができる。
- (2) 専門英語教育では、学生に対し、何を重視するのか?
英語4技能を連携させた総合的な英語能力
- (3) 部局として専門科目の英語化を、今後、どのように進めていくのか?
 1. 現在英語で開講している英語プログラム科目を広く周知し、日本人学生の受講を促す。
 2. 基盤科目として、アカデミックライティングや園芸グローバルセミナーなどの、国際性を育む授業科目を開講することで、大学院で必要なアカデミック英語教育の推進を検討している。
 3. 留学生向けの英語開講科目のみで終了できる英語プログラムを全コースに拡大整備するために、英語で開講する専門科目を増やすことを検討している。

松岡教務委員長

【園芸学部として学部生に身に付けてもらいたい英語力】

- (1) 英語能力を身につけるために、部局が求めている英語4技能
Reading: 専門分野に関する学術論文を問題なく読める。
Writing: 実験方法や結果(プレゼンテーション)を英語で書ける。また、研究に必要な事柄をメールにより相手に伝えられる。
Listening: 英語で行われる研究発表や専門科目の授業を聞き取れる。
Speaking: 簡単なディスカッションや研究発表を英語で行える。
- (2) 専門英語教育では、学生に対し、何を重視するのか?
研究に必要な文献読解能力と成果意見の発信力(ReadingとWriting)。
- (3) 部局として専門科目の英語化を、今後、どのように進めていくのか?
 1. 普遍教育の英語科目の単位数を4~8ではなく、6~8とすることで、2年生の英語科目の履修を必修化する。ただし全学の話なので、全学で検討している。
 2. 3年前期に各学科に専門英語の科目を設定する。これについては各学科で検討中。
 3. 卒業時にTOEIC730点を必ず身につけることを目標とする。

小林研究科長

それではこれから学生の意見を聞いていきます。まず、千葉大学の英語教育で、問題あると思われる事例について発言をお願いします。

学部4年生

普遍教育の英語科目は、高校で習った英語よりもレベルが低くて簡単に単位が取れるのはとても問題だと思う。また、同じ授業のレベルでも、担当教員によってレベルに差がありすぎる。例えばリーディングの授業なら、トピックの1文を訳す、次の1文を次の人が訳すという感じで、中学生でもできるような授業があった。

西千葉の英語科目と比べると、松戸の英語科目では量やバラエティが少なすぎる。時間が空いていても、その時間に松戸で英語の授業が開講されていなくて履修することができない。

松岡教務委員長

英語教育のレベルが低いということは感じることもある。園芸学部では入試に英語科目を導入して、実際に1年生の英語のレベルが上がった。そういった証拠を示して西千葉に改善を要求したい。

教員にレベルの差があるのは良くないことだと思うので、全学の会議等で訴えていきたいと思う。

松戸の英語科目にバラエティがないというのはその通りだが、英語の履修状況を見ると英語を履修する学生が少ないのも事実。そうすると、ますます英語科目が減る。2年生での英語の履修を必修化するのでも、授業科目は増えると思う。バラエティに乏しいというのはその通りなので、普遍教育の方に、学生が興味を持つような授業を設定するよう申し入れたい。

学部4年生

履修する学生が少ないという点について、情報の周知が足りてないのではないかと。プリティッシュカウンシルから講師が派遣されている授業について、知っている学生がとても少ない。登録の仕方についても難があるし、知らない学生が多い。情報の周知方法についてもっと検討すべきだと思う。

松岡教務委員長

周知については検討する。授業をバラエティに富む形にするのはとてもお金がかかるので難しい。ただ、レベルに差がある点については改善を要求していく。

博士後期3年生

このキャンパスには留学生がたくさんいる。留学生を活用した授業ができれば、大きなお金をかけることなく、英語の能力を高めることができると思う。

日本語が理解できない留学生から聞いた話だが、Webサイトに英語がないので理解できない。日本語と英語を併記するようになってほしい。

小林研究科長

事務的に対応できるところについてはできるようにしていく。

いま先生方が授業の改善点について述べたが、それを聞いてどう思うか聞かせてください。

学部4年生

授業内容のレベルに差があるので、入学当初に抽選でクラスを決めるのではなく、最初にプレ授業を受講して、自分に合ったレベルの授業を履修するというのはいかがでしょうか。また、個人によって上げたい能力が違うので、いまはバランスよく授業を履修する形になっているが、例えばリーディングの授業を何度も履修できるなど、自分の弱いところを強化できるような履修の仕方ができればいい。数が多いので抽選になってしまうのは分かるが、個人に焦点をあてた履修方法を考えてほしい。

松岡教務委員長

普遍教育でも能力別クラスを導入することを検討している。学生全員がそれを望んでいるのかは分からないが、私もその方がいいのではないかと考えている。

博士後期1年生

学部生時代に英語の授業を抽選で決められて、希望しない授業を取らされた。学生の英語のレベルにも差があったので、もったいなかったと思っている。レベル別で英語の授業をやってもらえるとうれしい。

良かった点も挙げると、私はM1の後期に半年間留学をしたが、留学準備の科目があって、プレゼン方法などを学べて、それがとても役に立った。また、留学に行きたい学生は前倒して授業を履修するなど、自由にカリキュラムを組めるところが利点だと思うので、カリキュラムの組み方に配慮してもらって、より柔軟に履修できるようにしてもらいたい。

松岡教務委員長

柔軟に履修できるようにという話があったが、園芸学部はこれからキャップ制を導入することになっている。これは例えば4年生に足りない単位をたくさん取るということが行われるのは良くないことであり、1年生から分散して履修するようカリキュラムを考えているので、それに従って履修してほしいと考えているからです。留学については単位互換制度があるのでそれを活用してほしい。ただ、留学についてそういう意見があると分かったので、それについては検討していきたい。

博士後期1年生

学部生時代に英語が途切れずに勉強できる方がいい。専門英語より普通の英語の方がいいと考えている。TOEIC対策の英語などあるといい。

後藤学務委員長

大学院進学や就職活動なのでTOEICやTOEFLを受ける学生が、2年生から4年生で教育を受けるチャンスがなくなるという状況は理解した。対策を考えたい。

小林研究科長

では次に、普遍教育の英語授業に期待するものについてはどうでしょうか。

博士後期3年生

日本の学生は社会的な英語を習ってきていない。だからあまり自信がなくて、あまり話したがない。ほかの国の人と話したければ、英語で話せないといけない。英語の映画を見たり、留学生と話す機会を作ったり、そういう授業があるといいと思う。英語が面白いと思える必要がある。学生は基本的に楽しみたいと思っている。英語を楽しめなければ、プレゼンテーションなどを学ぶこともできない。

学部4年生

西千葉ではそういう授業があるが、上級レベルの英語で必修でもないのに、私以外で履修している人はほとんど聞いたことがない。ただ、松戸に授業はないけれど、留学生はたくさんいるので、留学生と話す機会を作ればいいと思う。

小林研究科長

私は人数が少なかった別科の授業で、留学生に何回か参加してもらって、英語だけの授業をしたことがある。少人数の授業でならできると思う。

次に英語を勉強する目的についてはいかがでしょうか。

学部4年生

例としては、学術論文をすらすら読んで要約ができるくらいにはなりたいという学生もいますし、留学を考えている学生なら留学先で普通に授業を受けられるレベルになりたい、あとは将来の仕事のステップアップのためにとか英語がオフィシャルになっているところで働くとか、英語を学ぶ目的については個人によってさまざまだと思う。

小林研究科長

次に英語力向上のために、自身が努力していることはなんでしょうか。

学部4年生

例としては、英字新聞を読むとか、自分から積極的に英語のテストを受け、そのために勉強するとか、単位に関係なく英語の授業を受けるとか、留学生と話をするとかイングリッシュカフェに参加するなど、個人でいろいろとしていることはあると思う。

小林研究科長

たとえばイングリッシュハウスなど、正課外の英語支援への意見はありますか？

学部4年生

松戸のイングリッシュカフェに常駐の人がいてくれたらいい。また、留学生と日本人がリラックスして日常的にコミュニケーションが取れる場所を用意してほしい。

ギャップタームについてですが、ギャップタームがあるのはいいのですが、その時期に合わせた留学等の整備がまだされていないと思う。ギャップタームに合わせた留学の支援制度があるといい。

小林研究科長

イングリッシュカフェに常駐してくれる人は、西千葉に要求はしているけれど予算をつけてもらえない状況である。

博士後期3年生

イングリッシュカフェがもっと学生が自由に使えるようになったらいいと思う。いまは鍵がかかっていて、自由に使える状態ではない。もっとリラックスして使える状況になるといい。

博士前期1年生

学生はイングリッシュハウスのことをあまり知らない。英語を勉強したい学生や日本語を勉強したい留学生が集まって、お互いにコミュニケーションが取れるようになるといい。そうすればもっと学生が集まると思う。

小林研究科長

それらは確かに改善できる余地はあると思う。

博士後期3年生

英語だけでなく、タイや中国などに行く留学生のために、英語以外の言語が学べるようになるといい。イングリッシュハウスじゃなくインターナショナルハウスになるといい。

小林研究科長

それらは可能だと思う。

松岡教務委員長

学部生にアンケートを取ると、イングリッシュハウスのことは知っているけれど、使う気はないという学生が半数近くいる。これについてはどう思うか。

櫻井国際交流委員長

英語について動機づけが低い学生についてどうするかということ。

博士後期3年生

ほとんどの学生は英語を好きではないと思う。難しいけれど、先生たちが学生の興味を持てるような楽しい授業をできればいい。

小林研究科長

この問題は簡単ではない。実習などを行った際に、英語を使いたくない人たちのグループができ、問題になっている。でも、分からないでもない。日本語でやった方が楽。英語でやるということは努力が必要になる。

博士後期3年生

外国人の友人に聞いたが、キャンパスの中にあまりベンチとかがなく、キャンパスが通るだけの場所となっている。外にベンチなどがあれば、気軽に学生同士がコミュニケーションを取れる場所になると思う。

小林研究科長

あまり大きく考えるのではなく、さきほど提言があったように、まずは、この学生ホールを活用することを考えてみましょう。

その他、英語教育への要望はありますか。

博士前期2年生

eラーニングについて導入されていますか？

櫻井国際交流委員長

図書館の中にある。ただ古いかもしれない。

博士前期2年生

松戸の英語授業はバラエティさに欠けるという話があったが、eラーニングを活用すれば解決できるのではないか。

※英語教育関係以外での学生からの質問、要望等による懇談

学生側質問・意見・要望等	学部側回答・対応
博士前期2年生 教員の素行に疑問を感じることもある。もう少し、学生に対する立ち振る舞いに注意を払ってもらいたい。	小林研究科長 時間がだいぶ過ぎてしまっているが、英語以外になにか話したいことはありますか。
大学院特別聴講学生 ベジタリアンやビーガンの学生が食べるものがなくて困っている。また、大学に通うための交通費がとても高いので、学割とかがないか。	小林研究科長 教員の素行や態度で問題だと思えることがあればいつでも言ってほしい。それで学生が不利になるようなことは絶対にさせない。
	小林研究科長 学割については、正規生についてはあるが、非正規生についてはない。これは大学で解決するのは難しい。

<p>博士後期1年生 キャンパス内にカラーで印刷ができる場所が欲しい。</p> <p>博士後期3年生 学生ホールは夜の8時に閉まってしまう。留学生会の部屋はあるが、奥がイスラム教の礼拝場所になっていて、他の宗教の学生が使いづらい。留学生が集まりやすい場所が欲しい。夜にコミュニケーション取れる場所があるといい。</p> <p>学部3年生 人の集まる学生ホールのほかに、勉強のできる静穏な環境を確保してほしい。</p> <p>学部3年生 図書館が改修するにあたって、静かに勉強できるスペースがなくなってしまって困っている。あと、楽器を演奏できる場所が欲しい。</p> <p>学部4年生 学生ホールのピアノは鍵がかかっているが、常に自由に使えるようにしてほしい。</p>	<p>ベジタリアンやビーガンについては、クッキングスペースがあればいいだろうか。やれるとしたらそれくらいではないか。</p> <p>小林研究科長 それは技術的には可能ではないかと思う。検討してみる。</p> <p>小林研究科長 留学生会室と礼拝所の分離については、検討してみます。</p> <p>小林研究科長 新しい図書館では、学生ホールとは区別された静穏で快適な空間が整備される予定である。</p> <p>石山会計係長 C棟104に自主学習用のスペースは用意している。</p> <p>小林研究科長 とりあえずそこを試ってみて、不都合があればまた申し出てほしい。部屋を用意することはできると思う。音楽に関しては、それ用のスペースを用意するのは難しい。武道場を試みるのはどうか。いまは武道系のサークルが少なくなっているので、利用できると思う。</p> <p>小林研究科長 おそらく授業に影響があるために時間を決めて許可をしているのだと思う。そういった制約があることを理解してほしい。</p>
---	--

小林研究科長

長くなってしまったが、これで終わりにしたいと思う。どうもありがとうございました。